



防災のページ

第5回 風水害について(その1)

「風の強さと吹き方」 表参考：気象庁HP

| 風の強さ(予報用語) | 平均風速(m/s) | およその時速 | 速さの目安 | 人への影響 | 屋外・樹木の様子 | 走行中の車 | 建造物 | およその瞬間風速(m/s) |
|------------|--------------|--------|----------|--------------------------------------|--|---------------------------------------|--|---------------|
| やや強い風 | 10以上 15未満 | ～50km | 一般道路の自動車 | 風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。 | 樹木全体が揺れ始める。電線が揺れ始める。 | 道路の吹流しの角度が水平になり、高速運転中では横風に流される感覚を受ける。 | 樋(とい)が揺れ始める。 | 20 |
| 強い風 | 15以上 20未満 | ～70km | | 風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険。 | 電線が鳴り始める。看板やトタン板が外れ始める。 | 高速運転中では、横風に流される感覚が大きくなる。 | 屋根瓦・屋根葺材がはがれるものがある。雨戸やシャッターが揺れる。 | |
| 非常に強い風 | 20以上 25未満 | ～90km | 高速道路の自動車 | 何かにつかまっていられない。飛来物によって負傷するおそれがある。 | 細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。看板が落下・飛散する。道路標識が傾く。 | 通常速度で運転するのが困難になる。 | 屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。ビニールハウスのフィルム(被覆材)が広範囲に破れる。 | 30 |
| | 25以上 30未満 | ～110km | | | | | | |
| 猛烈な風 | 30以上 35未満 | ～125km | 特急電車 | 屋外での行動は極めて危険。 | 多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。 | 走行中のトラックが横転する。 | 固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる。養生の不十分な仮設足場が崩落する。 | 40 |
| | 35以上 40未満 | ～140km | | | | | 外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある。 | |
| | 40以上 | 140km～ | | | | | 住家で倒壊するものがある。鉄骨構造物で変形するものがある。 | |

(注1) 平均風速は10分間の平均、瞬間風速は3秒間の平均です。風の吹き方は絶えず強弱の変動があり、瞬間風速は平均風速の1.5倍程度になることが多いですが、大気の状態が不安定な場合等は3倍以上になることがあります。

(注2) この表を使用される際は、以下の点にご注意下さい。

1. 風速は地形や廻りの建物などに影響されますので、その場所での風速は近くにある観測所の値と大きく異なることがあります。
2. 風速が同じであっても、対象となる建物、構造物の状態や風の吹き方によって被害が異なる場合があります。この表では、ある風速が観測された際に、通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。
3. 人や物への影響は日本風工学会の「瞬間風速と人や街の様子との関係」を参考に作成しています。今後、表現など実状と合わなくなった場合には内容を変更することがあります。

台風などの風水害は、ある程度は発生や経過を予測することができます。防災気象情報等に注意して、被害の拡大を防ぎましょう。

台風について

強風と大雨の両方、またはどちらかをともなった温帯低気圧のことで、最大風速がおおよそ毎秒17メートル以上で「台風」と呼ばれます。

昨年8月には、相次いで発生した台風第7号、第11号、第9号が北海道に上陸し、台風第9号上陸時には、本町においても99.5mm(気象庁データ)の降雨量を観測しました。

なお、北海道に3つの台風が上陸したことは、気象庁が1951年に統計を開始して以来、初めてでした。



①台風の強さの階級分け

| 階級 | 最大風速 |
|-------|-----------------|
| 強い | 33m/s以上～44m/s未満 |
| 非常に強い | 44m/s以上～54m/s未満 |
| 猛烈な | 54m/s以上 |

②台風の大きさの階級分け

| 階級 | 風速15m/s以上の半径 |
|-------------|-----------------|
| 大型(大きい) | 500km以上～800km未満 |
| 超大型(非常に大きい) | 800km以上 |

集中豪雨について

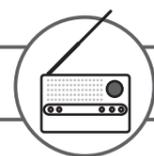
集中豪雨は、短時間のうちに狭い地域に集中して降る豪雨のことで、梅雨の終わりごろによく起こります。狭い地域に限られ突発的に降るため、その予測は比較的困難であり、河川の氾濫や土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害が予想されま。う。げけ付近や造成地、土砂災害警戒区域等は気象情報等に十分注意し、万全の対策をとるようにしましょう。



| 1時間雨量(mm) | 予報用語 | 人の受けるイメージ | 人への影響 |
|-----------|---------|------------------------|------------------|
| 10以上～20未満 | やや強い雨 | ザーザーと降る | 地面からの跳ね返りで足元がぬれる |
| 20以上～30未満 | 強い雨 | どしゃ降り | |
| 30以上～50未満 | 激しい雨 | バケツをひっくり返したように降る | 傘をさしていてもぬれる |
| 50以上～80未満 | 非常に激しい雨 | 滝のように降る | |
| 80以上 | 猛烈な雨 | 息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる | 傘は全く役に立たなくなる |

前兆現象を確認した場合のとるべき行動

- ①川の近くにいる場合は、まわりの空が真っ黒になったらすぐに避難する
- ②雷鳴や稲妻を確認したら建物内へ避難する
- ③冷たい風が吹き出したら注意する
- ④大粒の雨やひょうが降り出したら、建物内へ避難する
- ⑤川の近くでは、警告のサイレン音が聞こえたらすぐに川から離れる



町では、防災行政無線(災害情報や町からのお知らせが放送されます)を無償貸与しています。